

2018年(平成30年)

9月21日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カチドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

## ■概況

9/6~9/12のNYMEX・WTIは、67.54~70.37ドルの範囲で推移した。

9月13日は、前日の70ドル回復の反動、利食い売りに加え、国際エネルギー機関(IEA)の月報で、OPECの8月産油量が9ヶ月ぶりの高水準となったこと、新興国市場の懸念や貿易摩擦の激化による石油需要への影響が指摘されたことから3日ぶりに大きく反落した。10月限終値は前日比1.78ドル安の68.59ドルだった。

週末14日は、依然として、イラン原油削減懸念が意識される中、前日安値の反動の安値拾いや持ち高調整の買いが入り、反発した。ただ、米中貿易交渉の先行き不透明感、ベーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数867基(前週比7基増)の報告が上値を抑えた。10月限終値は前日比0.40ドル高の68.99ドル。

週明け17日は、イラン原油の輸入停止が近づき、供給懸念が意識される一方で、米国が対中制裁関税第3弾の発動発表など世界経済の先行き不安の拡大で、わずかに反落した。10月限終値は前週末比0.08ドル安の68.91ドル。

18日は、この日、シリア沖でイスラエル軍が行動する中、ロシア軍機がシリアの対空ミサイルの誤射で撃墜され、中東の地政学リスクが改めて意識されたこと、また、サウジは最近の高値水準を容認するとの観測が出てきたこと、米国の対中関税についても想定より緩いものであったことから、反発した。10月限終値は前日比0.94ドル高の69.85ドル。

19日は、前日の流れに加え、EIAの米国在庫週報で原油とガソリンの取り崩しがあり、続伸した。10月限終値は前日比

1.27ドル高の71.12ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は、前週74.60~77.50ドルの範囲で推移した。9月13日77.40ドル、14日76.20ドル、18日75.70ドル、19日77.20ドルで推移した。

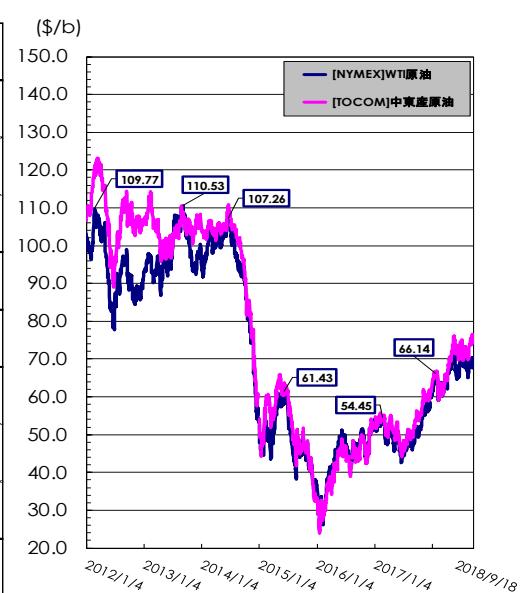
為替は、前週110.51~111.58円の範囲で推移した。9月13日111.43円、14日112.11円、18日111.83円、19日112.30円で推移した。

財務省が19日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は、53,431円/klで、前旬比616円安、ドル建では76.55ドルで前旬比0.60ドル安。為替レートは1ドル/110.97円だった。また、同日発表の貿易統計(速報・月間)によると、8月の原油輸入平均CIF価格は、53,874円/klで、前旬比454円安、ドル建では76.94ドルで前旬比0.25ドル安。為替レートは1ドル/111.33円だった。

主要元売会社の9月第3週に適用する卸価格は、全社・全油種とも、据え置きとなった。原油価格はわずかに値上がりしたが、為替レートがわずかに円高で、原油調達コストはほぼ横ばいだった。

そのような中で、9月18日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.6円の値上がり、軽油が同0.6円の値上がり、灯油は同7円の値上がり(18㍑ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、3週連続の値上がりだった。この週(9月第2週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.5円の値上げとなった。

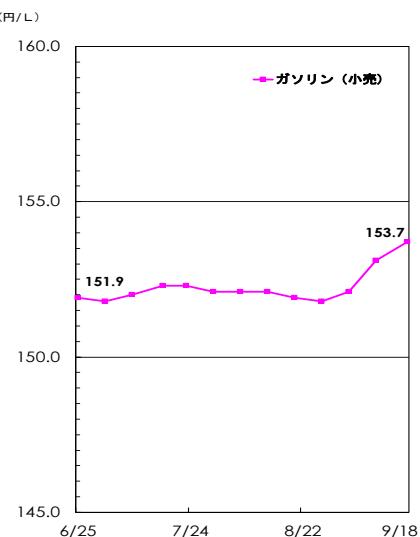
原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/9 ~ 9/15	3,320	▼ -101	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	84.8	▼ -2.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/15	13,054	▲ 239	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/18	74.89	▲ 0.48	▲ 21.0
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/17	68.91	▲ 1.37	▲ 19.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	76.55	▼ -0.60	▲ 27.57
①原油CIF単価	(¥/kl)	"	53,431	▼ -616	▲ 19,299
②ドル換算レート	(¥/\$)	"	110.97	▲ 0.39	▼ -0.19
外国為替TTSレート	(¥/\$)	9/18	112.83	▼ -0.90	▼ -0.37



ウィークリー オイル マーケット レビュー 18第23号

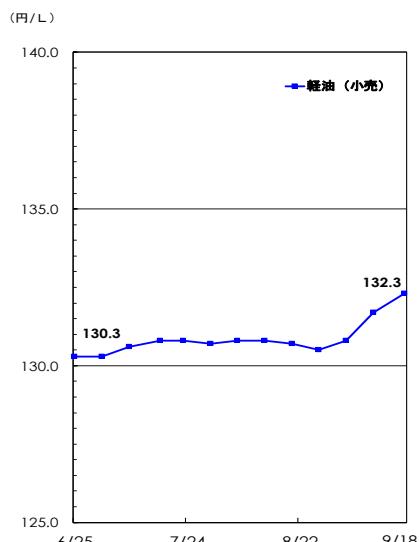
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/9 ~ 9/15	1,067	▲ 88
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	815	▼ -151
	輸出	"	142	▲ 118
	在庫	9/15	1,666	▲ 111
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/11 ~ 9/17	69.2	▼ -0.3
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/11 ~ 9/17	68.7	▲ 1.7
	(TOCOM/中部)	9/14	69.3	▲ 2.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/18	153.7	▲ 0.6
				▲ 22.1

※業転、先物価格は税抜き価格

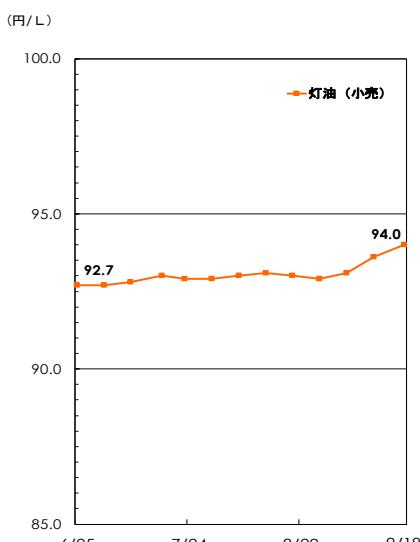


軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/9 ~ 9/15	815	▼ -112
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	624	▼ -27
	輸出	"	195	▼ -74
	在庫	9/15	1,576	▼ -4
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/11 ~ 9/17	70.5	▲ 0.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/11 ~ 9/17	69.5	▲ 0.5
	(TOCOM/中部)	9/14	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/18	132.3	▲ 0.6
				▲ 21.9

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	9/9 ~ 9/15	218	▼ -92
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	126	▼ -42
	輸出	"	0	► 0
	在庫	9/15	2,450	▲ 92
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/11 ~ 9/17	70.3	▲ 0.2
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	9/11 ~ 9/17	71.0	▲ 1.1
	(TOCOM/中部)	9/14	71.5	▲ 1.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/18	94.0	▲ 0.4
				▲ 17.9



## ■ 関連情報

### 1 海外/原油

9月19日のNYMEX市場WTI原油は、イラン原油の供給削減懸念が再認識される中、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が210万バレル減と市場予想を下回ったものの、3億9410万バレルと2015年2月以来の低水準を記録したこと、ガソリンが市場予想(同10万バレル減)を大きく上回り同170万バレル減少したことから続伸し、7月10日以来約2ヶ月ぶりの高値を記録した。OPECと非加盟産油国は23日アルジェリアで市場監視委員会を開催することから、その結果に関係者は注目している。10月限終値

は前日比1.27ドル高の71.12ドル、11月限の終値は前日比1.18ドル高の70.77ドルだった。

EIAによると、9月17日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.8セント値上がりの1ガロン2.841ドル(84.8円/㍑)、ディーゼルは前週比1.0セント値上がりの3.268ドル(97.5円/㍑)となった。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がり。

### 2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年9月9日～9月15日に休止したトッパー能力は30.0万バレル/日で、前週に対して23.6万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は332.0万kLと、前週に比べ10.1万kL減少。前年に対しては25.9万kLの減少。トッパー稼働率は84.8%と前週に対して2.6ポイントの減少、前年に対しては6.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/9.0%増、ジェット/52.1%増、灯油/29.7%減、軽油/12.1%減、A重油/4.6%増、C重油/5.2%減。今週のC重油の輸入は4.2万kL(前週比0.8万kL増)。軽油の輸出は19.5万kL(前週比7.4万kL減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は81.5万 kL(対前週15.6%減)と前週比で2週連続で減少となり、2週連続で100万kLを下回った。

ジェット17.2万kL(対前週325.3%増)、灯油12.6万kL(対前週25.0%減)、軽油62.4万kL(対前週4.2%減)、A重油20.6万kL(対前週2.0%増)、C重油25.0万kL(対前週83.5%増)。

(単位:千kL)

	今週 (9/9 ~ 9/15)	前週 (9/2 ~ 9/8)	前週比
ガソリン	815	966	▼ -151 (-16%)
ジェット燃料	172	40	▲ 132 (330%)
灯油	126	168	▼ -42 (-25%)
軽油	624	651	▼ -27 (-4%)
A重油	206	202	▲ 4 (2%)
C重油	250	136	▲ 114 (84%)
合計	2,193	2,163	▲ 30 (1%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

### 2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月15日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは166.6万kL、前週差11.1万kL増。前年に対しては11.0万kL少ない。

灯油は245.0万kL、前週差9.2万kL増。前年に対しては7.2万kL多い。

軽油は157.6万kL、前週差0.4万kL減。前年に対しては16.7万kL多い。

A重油は70.8万kL、前週差0.1万kL減。前年に対しては6.1万kL少ない。

C重油は212.1万kL、前週差0.4万kL増。前年に対しては1.9万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (9/15)	前週 (9/8)	前週比
ガソリン	1,666	1,555	▲ 111 (7%)
ジェット燃料	1,001	1,136	▼ -135 (-12%)
灯油	2,450	2,358	▲ 92 (4%)
軽油	1,576	1,580	▼ -4 (-0%)
A重油	708	709	▼ -1 (-0%)
C重油	2,121	2,117	▲ 4 (0%)
合計	9,522	9,455	▲ 67 (0.7%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月11日から9月17日の原油価格は前週対比で値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン122~123円台でほぼ横ばい、軽油70円台でほぼ横ばい、灯油70円台でわずかに値上がりで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン124~125円台で

値上がり、軽油70~71円台で大きく値上がり、灯油70~71円台で大きく値上がりで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン121~123円台で大きく値上がり、軽油69~70円台で値上がり、灯油70~71円台で大きく値上がり後やや軟化して推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の値上げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、陸上ガソリンの値下がりを除き、全油種・全取引で、値上がりした。

9月第4週(9月20日~9月26日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月11日~9月17日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.3円の値下がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油も0.1円の値上がり。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.6円の値上がり、灯油も1.1円の値上がり、軽油も1.1円の値上がりだった。

先物価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油も1.1円の値上がり、軽油も0.5円の値上がりだった。

原油価格は値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりした。

9月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とともに、全社1.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

	(単位:円/㎘)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (9/11 ~ 9/17)	前週 (9/4 ~ 9/10)	前週比
ス レギュラー	69.2	69.5	▼ -0.3
ス ポ ツ	70.3	70.1	▲ 0.2
ト 価 格	70.5	70.4	▲ 0.1

	(単位:円/㎘)		
[期近物/終値][平均]	今週 (9/11 ~ 9/17)	前週 (9/4 ~ 9/10)	前週比
先 物 価 格	68.7	67.0	▲ 1.7
レギュラー	71.0	69.9	▲ 1.1
灯油	69.5	69.0	▲ 0.5
軽油			

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/11~9/17実績値) (単位:円/㎘)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.3	▲ 1.7	▲ 0.7
灯油	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 0.7
軽油	▲ 0.1	▲ 0.5	▲ 0.3
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

9月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.6円高の153.7円、軽油も同0.6円高の132.3円、灯油は同0.4円高の94.0円(18%ベースでは7円高の1,692円)だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油も3週連続の値上がり、ガソリンは3年9ヶ月ぶりの高値水準、5月28日以来17週連続で150円を上回った。都道府県別に、ガソリンの値上がり率は41都府県、横ばいは3県、値下がりは3道県であった。全国最安値は、徳島県の149.3円(前週比0.2円高)、次が、埼玉県の149.4円(前週比1.3円高)、最高値は長崎県の162.7円(同1.0円高)。最も値上がりしたのは、2.6

円高の滋賀県(153.3円)、最も値下がりしたのは0.3円安の熊本県(154.3円)で、横ばいは、富山県、高知県、石川県の3県だった。

先週の原油コストは値上がりで、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の値上げとなった。今週の原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりした。次週(9月25日)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(資源庁公表) [週動向]	今週 (9/18)	前週 (9/10)	前週比	直近高値
小 売 価 格				
レギュラー	153.7	153.1	▲ 0.6	08/8/4 185.1
灯油	94.0	93.6	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	132.3	131.7	▲ 0.6	08/8/4 167.4

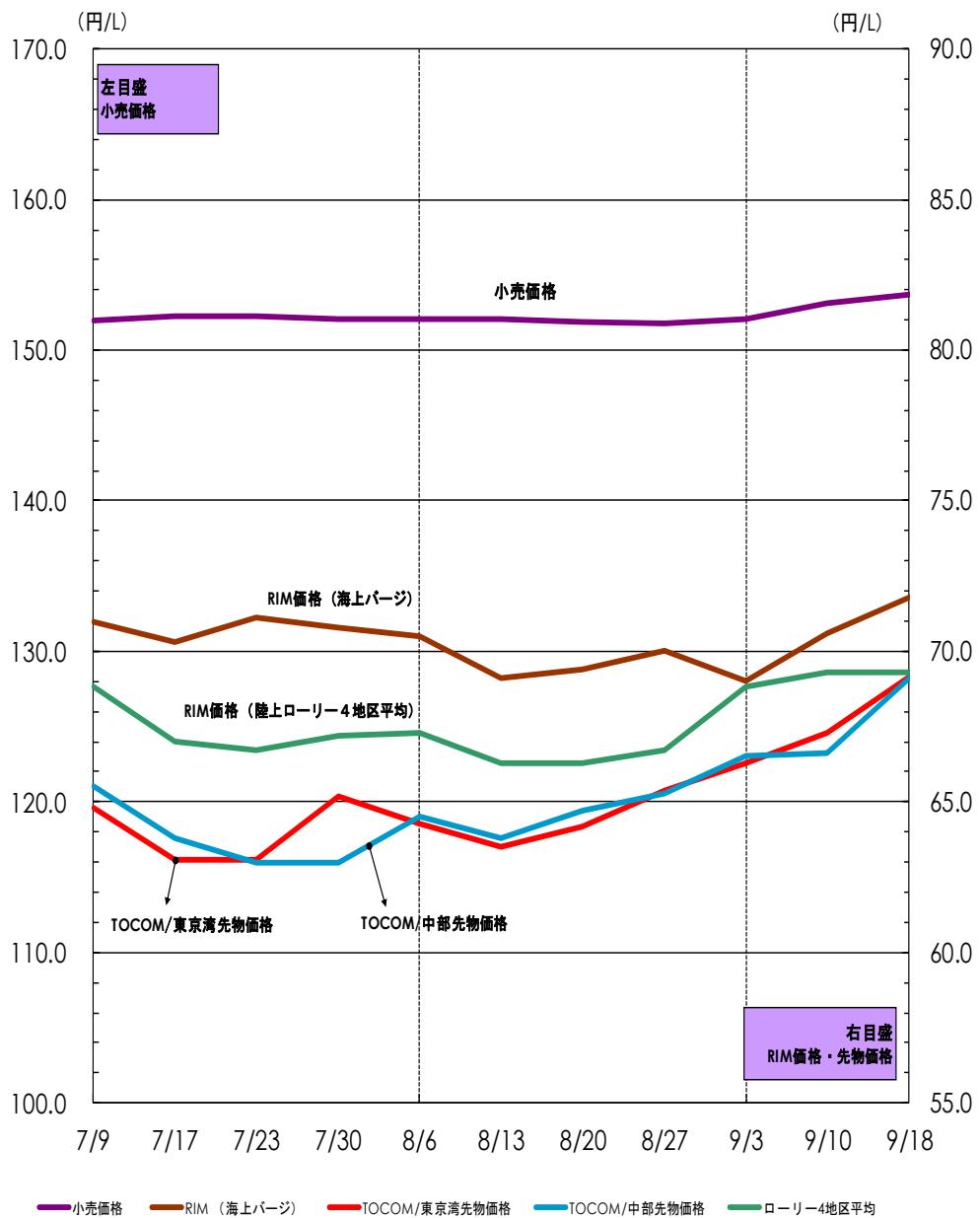
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

## ガソリン価格推移

(2018/7/9 ~ 2018/9/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回（2018第24号）の公表は、9/28（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成30年3月末現在）は、7月31日（火）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資工庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁-HPIに掲載）。